



朝日 将貴 議員

無党派

問 公共施設マネジメント前進入

答 市民・議会・行政三位一体で

兵庫県伊丹市「公共施設マネジメント」視察より以下を問う。

問 公共施設再配置計画を実施していくにあたり、当面の数値目標を立てては。

答 (総務部長) 今後40年間の縮減目標は31・9%。短期・中期的にはこの限りではない。

問 長期的、継続的な事業であるため専任部署を作る必要があるのでは。

答 (総務部長) 来年度は秘書企画課企画政策グループ3名で担当し、その先は専任部署を設置する。

問 条例を制定することで、人が変わっても継続的な事業ができるかと考えるが。

答 (総務部長) 条例は制定しない。来年度から策定する公共施設再配置計画で

基本理念、基本方針、進化管理、目標設定を定める。

問 市民と合意形成していくにあたり、議会への要望も含め市長の意見は。

答 (市長) この事業は、市民・議会・行政が三位一体となって、知恵を出し合い、協力しなければできない。

発災時のペットの扱いについて獣医師からの提言を受け、以下を問う。

問 ペット同行避難についてこれまでの取り組みは。

答 (総務部長) 災害時に備えるペットの飼い方などをホームページに掲載している。

問 県と県獣医師会との災害協定とは。

答 (総務部長) 飼い主と行政が発災時にどう関わっていくかを11項目に整理したものの。

問 指定避難所においてペット同行避難の可否は。

答 (総務部長) 受け入れを前提としているが、条件によってはできないこともある。

た、今後の周知方法は。

答 (総務部長) 避難所を円滑に運営していくためのもの。防災訓練などで広く周知したい。

問 避難所運営を協議する場において、獣医師との連携があれば一層良い議論ができる。

答 (市長) 犬だけで約2500頭、他の動物を加えると困難が多い。普及啓発し市民の理解を深め、獣医師との協議の場を設ける。

問	ペット避難 獣医師との連携を
答	獣医師との 協議の場を設ける

